

第4章 外来語の定着度データの分析

田中 牧郎

1 はじめに

本論文では、第2部第1章で述べた「外来語定着度調査」のデータの一部について、

- (1) 定着度調査のデータを活用した外来語の層化と、「外来語」言い換え提案への活用、
- (2) 定着度の三つの指標、認知率・理解率・使用率の相関、
- (3) 定着度の年齢層による違い、

の三つの観点から分析を加える。

2 定着度から見た外来語の層化と「外来語」言い換え提案への活用

「外来語定着度調査」にかけた、異なりで398語のデータについて、認知率、理解率、使用率の分布を、25%幅でとらえて示すと、図1～3の通りである。縦軸は、語数である。

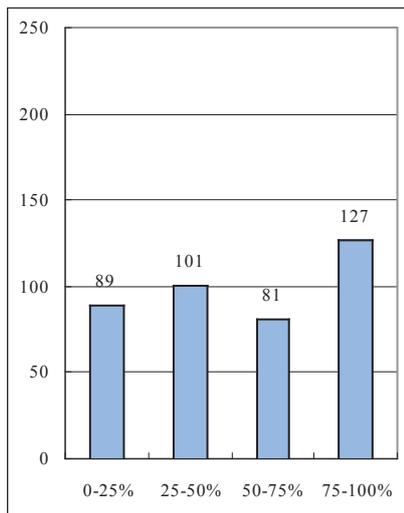


図1 認知率の分布

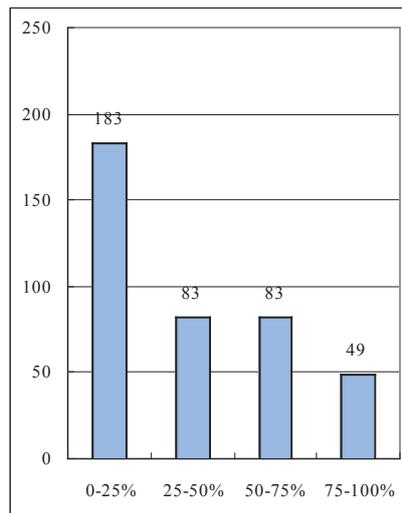


図2 理解率の分布

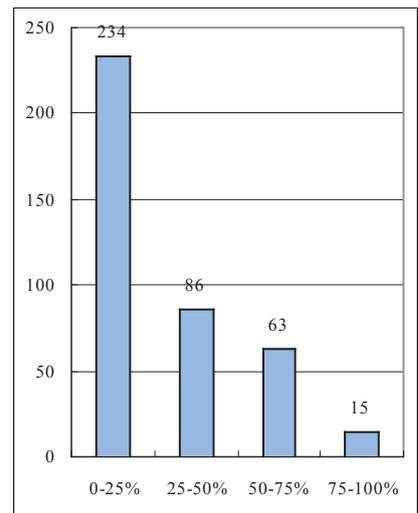


図3 使用率の分布

認知率の分布を示す図1は、平坦に近いながらもどちらかと言えば右側が高くなっている。一方、理解率の分布を示す図2は、左側が高くなっている。そして、使用率の図3は、左側が極端に高くなっている。これらのことから、調査対象にした外来語は、国民の認知率は高いものも多いが、理解率は低いものも多く、使用率は全体に相当に低い、ということが分かる。調査の質問文に即して言い換えれば、これらの外来語を見聞きする機会は多くても、意味が理解できるものは少なく、自分で使用するものはずいぶん少くないということである。

「外来語」言い換え提案では、分かりにくさ、つまり、意味を理解できるかどうかをいちばんの問題にしているので、三つの指標のうち、特に「理解率」に着目して、外来語を四つの層に分けた。理解率の分布を示す図2の四つの柱に属する外来語を、次のように性格付け、星印で段階差を示した。

★☆☆☆	25%未満	定着していない
★★☆☆	25%以上 50%未満	定着は不十分だが今後定着に向かう可能性がある
★★★☆☆	50%以上 75%未満	定着しつつある
★★★★	75%以上	定着している

「外来語」言い換え提案では、このうち★☆☆☆から★★★★☆までを、十分に定着していない外来語と扱った。ただし、理解率は年齢層によって大きく異なり、高年齢層の理解率の低さが際立つ語が多い。この、年齢層による理解率の違いについては、3.3で詳しく述べる。とりわけ理解率の低くなる語の多い、60歳以上については、国民全体とは別に集計を行い、国民全体では★★★★でも、60歳以上では★★★☆☆のものは、定着は必ずしも十分でないものと扱った。また、語別の提案では、これらの定着度の各段階に応じて、外来語への対応方法についてきめ細かく工夫した。提案した語ひとつひとつの定着度のありようは、本報告書の第1部に詳しく述べたので、参照してほしい。

3 認知率，理解率，使用率の相関

3.1 認知率と理解率の相関

認知率，理解率，使用率の三つの指標を組み合わせて分析することによって、外来語の定着度についての考察を掘り下げたい。

まず、ひとつひとつの外来語について、認知率と理解率とがどのような相関を示すのか、観察する。図4は、国民全体での認知率を横軸、理解率を縦軸にとって、散布図にしたものである。図中の一点一点が外来語一語一語の位置を示している。認知率と理解率は相関を持つことが明らかであるが、点の分布の全体の形はゆるやかな曲線状で、中央部分がややふくらむ三日月形になっている。認知率の低い語では理解率もかなり低くおさえられているのに対して、認知率の高い語は理解率も高く押し上げられる様子が見て取れる。つまり、認知率が低い段階では、認知率の伸びに比べて理解率の伸びが伴わないが、認知率が高くなると理解率の伸びも一気に高まるのである。また、中央部分がふくらんでいる現象は、認知率が中程度の語の中には、理解率との差が大きくなるものが散見されるということの意味するものである。定着が中程度の語の中に、認知率と理解率の乖離が目立つものがあるのである¹。

認知率と理解率の乖離の大きい外来語は、具体的にどのようなものだろうか。このことについて具体的に確かめるため、二つの指標を立てた。

(1) 認知率と理解率の差

$$\text{認知率} - \text{理解率}$$

(2) 認知率と理解率の比

$$\text{認知率} \div \text{理解率}$$

(1)の数値が大きいものは、見聞きはするけれども意味の分からない人が多い外来語ということになる。ただ、この計算方法は、定着度がある程度高いものでないと、数値が大きくならず、定着度の低いものも含めた比較には適さないという問題がある。一方、(2)の計算方法では、定着度の高低に関わらず、認知率と理解率の乖離の度合いを測ることができる。しかし、定着度の極端に低いものの場合、もともとなる人数が少数であるため、その計算結果にどれだけ意味があるのか疑問に思われる場合もある。(1)(2)それぞれに長所短所のある指標であるので、両者を補い合わせながら、見ていくことにしたい。

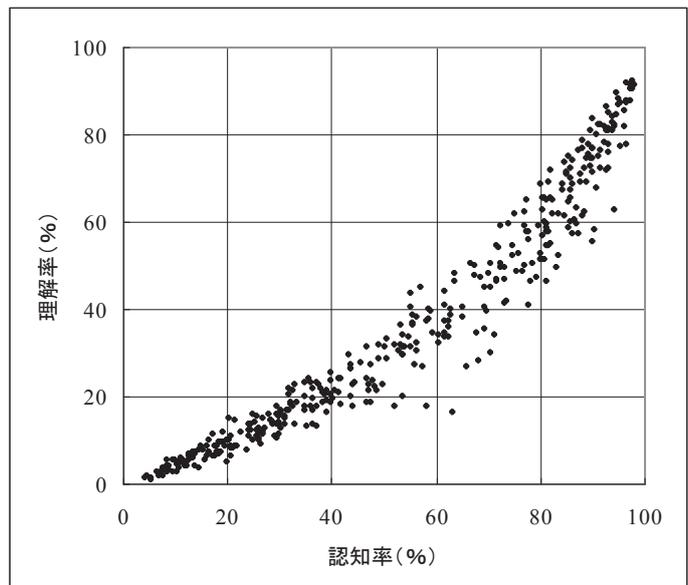


図4 認知率と理解率の相関

まず、(1) 認知率と理解率の差の指標で、数値の大きいものから10語を一覧にすると表1のようになる。

表1 認知率と理解率の差が大きいもの上位10語

順位	外来語	認知率	理解率	認知率－理解率
1	アセスメント	62.7	17.0	45.7
2	サテライト	70.3	30.3	40.0
3	アナリスト	58.0	18.4	39.6
4	インサイダー	68.0	28.6	39.4
5	テクノポリス	65.4	27.1	38.3
6	グローバル	77.4	41.3	36.1
7	マネージメントシステム	70.7	34.6	36.1
8	オブザーバー	80.8	46.8	34.0
9	アプリケーション	51.6	18.1	33.5
10	ガイドライン	89.5	56.0	33.5

これらの外来語は、見聞きはするものの意味が分からないと回答している人の数が最も多い外来語ということになる。「1. アセスメント」「8. オブザーバー」「10. ガイドライン」のような政治、「2. サテライト」「3. アナリスト」「4. インサイダー」「5. テクノポリス」「6. グローバル」「7. マネージメントシステム」など、経済や経営の分野の語が多いのが特徴である。「9. アプリケーション」のみが、政治、経済・経営以外の分野の外来語である。

次に、(2) 認知率と理解率の比の指標で、数値の大きいものから10語を示すと表2のようになる。

表2 認知率と理解率の比が大きいもの上位10語

順位	外来語	認知率	理解率	認知率÷理解率
1	アセスメント	62.7	17.0	3.69
2	アナロジー	19.4	5.6	3.46
3	オフサイトセンター	14.1	4.2	3.36
4	キュレーター	4.9	1.5	3.27
5	アナリスト	58.0	18.4	3.15
6	インテグレーション	20.4	6.6	3.09
7	インキュベーション	10.0	3.3	3.03
8	アドミッションオフィス	7.2	2.4	3.00
9	アーカイブ	23.4	8.0	2.93
10	アジェンダ	13.4	4.7	2.85

「4. キュレーター」「8. アドミッションオフィス」のように、認知率が10%に満たないあまり見聞きされることのない語もあるが、「1. アセスメント」「5. アナリスト」など、認知率が50%を超える語もあり、見聞きする機会の多い語も含まれている。この2語は、表1でも上位に挙がっていたもので、見聞きする機会の多さに比較して、それを理解している国民の少なさが特に顕著な語ということになる。「2. アナロジー」「3. オフサイトセンター」「6. インテグレーション」「7. インキュベーション」「9. アーカイブ」「10. アジェンダ」など、認知率が10～20%代の語も、認知率と理解率の乖離の大きいものと見てよいであろう。表1の語のような分野による偏りは見られない。

それでは、認知率と理解率の乖離の小さい語は、どのようなものだろうか。表3は、(1) 認知率と理解率の差の小さいものの上位10語、表4は、(2) 認知率と理解率の比の小さいものの上位10語を挙げたものである。

表3 認知率と理解率の差が小さいもの上位10語

順位	外来語	認知率	理解率	認知率－理解率
1	トレーサビリティ	8.0	6.1	1.9
2	トリアージ	4.0	2.0	2.0
3	オーセンティシティ	4.3	2.2	2.1
4	ロードプライシング	6.1	3.0	3.1
5	フィランソロピー	5.0	1.9	3.1
6	キュレーター	4.9	1.5	3.4
7	パブリックインボルブメント	6.8	3.3	3.5
8	ユビキタス	7.4	3.9	3.5
9	ブリーフィング	9.3	5.7	3.6
10	オーソライズ	8.2	4.4	3.8

表4 認知率と理解率の比が小さいもの上位10語

順位	外来語	認知率	理解率	認知率÷理解率
1	トラブル	96.2	92.3	1.04
2	ルール	94.1	90.1	1.04
3	ストレス	97.4	92.6	1.05
4	プライバシー	97.1	91.9	1.06
5	ハッピー	92.3	86.8	1.06
6	プライド	89.7	84.3	1.06
7	リストラ	97.8	91.8	1.07
8	リサイクル	97.1	91.1	1.07
9	キャンセル	94.7	88.7	1.07
10	ボランティア	97.2	90.8	1.07

表3では、すべての語の認知率が10%以下であり、見聞きする機会自体がきわめて少ない語である。見聞きしたことのある人自体がきわめて少ない語であるので、これらをそのまま、認知率と理解率の乖離が小さい語と見なすことはできないだろう。まだ、ほとんど知られていない段階の外来語と見るべきものだろう。一方、表4の語はほとんどが認知率90%以上であり、ほとんどの国民が見聞きしたことのある語である。これらは、まさしく認知率と理解率の乖離が小さい語だと見なすことができるだろう。見聞きする人だれもが意味を理解できる段階にまで定着した外来語は、見聞きする機会が非常に多い語であるということが分かる。

3.2 理解率と使用率の相関

同じ方法で、理解率と使用率の相関を見たい。図5は、国民全体での理解率を横軸、使用率を縦軸にとった散布図である。図4の場合に比べて、左下に密集する度合いが強くなっているが、基本的な形状は図4と同じである。理解率の低い段階では理解率の伸びに比べて使用率の伸びはともなわないが、理解率が

高くなるとともに使用率の伸びも一気に高まるのである。

理解率と使用率の乖離の度合いを、次の二つの指標で観察する。

- (1) 理解率と使用率の差
理解率－使用率
- (2) 理解率と使用率の比
理解率÷使用率

はじめに、(1) 理解率と使用率の差の指標で上位に挙がる10語を示すと、表5のようになる。

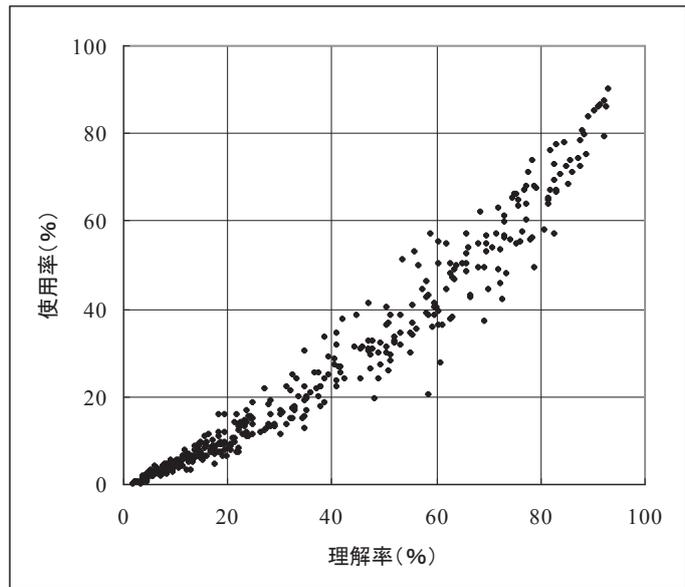


図5 理解率と使用率の相関

表5 理解率と使用率の差が大きいもの上位10語

順位	外来語	理解率	使用率	理解率－使用率
1	スクールカウンセラー	58.1	20.9	37.2
2	コメンテーター	60.4	28.2	32.2
3	ドナー	68.9	37.5	31.4
4	セクシュアルハラスメント	72.5	42.7	29.8
5	シナリオ	78.6	49.8	28.8
6	ドメスティックバイオレンス	48.0	20.0	28.0
7	クローン	71.9	46.0	25.9
8	オーディション	82.2	57.3	24.9
9	コミック	69.7	44.8	24.9
10	ホワイトカラー	73.3	48.6	24.7

表5の10語の理解率－使用率の数値は、表1の認知率と理解率の差の大きい上位10語の認知率－理解率の数値に比べると、やや小さい。表5で上位に挙がってくる語は、新聞やテレビなどで話題になりやすいと考えられるので、理解は進んでいるものの、自らの日常生活では話題になりにくく、使用することがあまりないのではないか。表1の語に多かった、政治、経済・経営に関わる語は見当たらず、それ以外の様々な分野の語に及んでいる。

続いて、(2) 理解率と使用率の比の指標で上位に挙がる10語を見てみよう。

表6 理解率と使用率の比が大きいもの上位10語

順位	外来語	理解率	使用率	理解率÷使用率
1	ロードプライシング	3.0	0.5	6.00
2	オフサイトセンター	4.2	0.9	4.67
3	ポータビリティ	3.6	0.9	4.00
4	セルフヘルプ	17.4	5.2	3.35
5	オンズバースン	3.0	0.9	3.33

6	パブリックインボルブメント	3.3	1.0	3.30
7	パブリックコメント	12.5	3.8	3.29
8	コンソーシアム	4.1	1.3	3.15
9	アクセシビリティ	4.4	1.4	3.14
10	メガフロート	11.8	3.8	3.11

7語までが、理解率5%以下の語であり、理解率が最高の「4. セルフヘルプ」でも、17.4%にとどまる。意味を理解している人の比率に比べて、使用する人の比率の低い外来語は、定着度のきわめて低い語が大半を占めているということが分かる。

理解率と使用率の乖離の小さいものを見てみよう。表7は、(1)理解率と使用率の差の小さいものの上位10語、表8は、(2)理解率と使用率の比の小さいものの上位10語を挙げたものである。

表7 理解率と使用率の差が小さい語 上位10語

順位	外来語	理解率	使用率	理解率－使用率
1	トリアージ	2.0	1.1	0.9
2	キュレーター	1.5	0.5	1.0
3	コンプライアンス	5.7	4.7	1.0
4	ソフト	58.6	57.6	1.0
5	エンフォースメント	3.4	2.3	1.1
6	フィランソロピー	1.9	0.7	1.2
7	オーセンティシティー	2.2	1.0	1.2
8	インキュベーション	3.3	2.0	1.3
9	シラバス	4.5	3.2	1.3
10	タスクフォース	4.9	3.6	1.3

表8 理解率と使用率の比が小さい語 上位10語

順位	外来語	理解率	使用率	理解率÷使用率
1	ソフト	58.6	57.6	1.02
2	ストレス	92.6	90.6	1.02
3	ハード	53.4	51.6	1.03
4	ディスク	55.5	53.2	1.04
5	リサイクル	91.1	87.0	1.05
6	プライバシー	91.9	87.6	1.05
7	ボランティア	90.8	86.2	1.05
8	キャンセル	88.7	84.2	1.05
9	ルール	90.1	85.5	1.05
10	インターネット	78.3	74.2	1.06

表7では、9語までが理解率6%以下であり、ほとんど理解されていない語であり、これらを、理解率と使用率の乖離が小さい語と見なすことはできないだろう。その中で「4. ソフト」が58.6%という高い理解率でありながら、上位に挙がってきていることが目をひく。この語は、理解率と使用率の乖離がきわ

めて小さい語と見てよいであろう。

一方、表8は、全体的に理解率のかなり高い語が多く、7語までが75%以上である。一方、理解率が75%以下のものも3語あり、これは、認知率と理解率との比の小さい語（表4）には見られなかった現象である。それら「1. ソフト」「3. ハード」「4. ディスク」は、いずれもコンピューターなど情報技術に関わる基本的な語であることも注目される²。情報技術の分野の基本的な語は、理解している人の数自体は必ずしも多くなくても、理解している人はその言葉を自らも使う、ということを表していそうである。

3.3 年齢層による定着度の違い

3.3.1 国民全体と60歳以上との違い

「外来語」言い換え提案では、定着度の集計を、全体（すべての年齢層）と60歳以上とに分けて、示している。全体の理解率と、60歳以上の理解率との相関を散布図で示すと、図6の通りである。

ほとんどの語が、中央から右下側に位置し、国民全体の理解率に比較して60歳以上の理解率が低いという全体的な傾向があることが確認できる。また、その形状は、先に見た、認知率と理解率の相関の図（図4）、理解率と使用率の相関の図（図5）と似ている。国民全体で見た、認知から理解へ、理解から使用へ、という定着の進行の様子が、高年齢層への浸透という側面からもうかがえるのである。また、理解率が中段階のものの中に、年齢層による落差のきわめて大きい語がたくさんある、ということも分かる。

全体と60歳以上との理解率の乖離の状況を、次の二つの指標で測り、それぞれの大小の上位10語ずつを、表9～表12に示した。

- (1) 全体と60歳以上との差

$$\text{全体の理解率} - \text{60歳以上の理解率}$$
- (2) 全体と60歳以上との比

$$\text{全体の理解率} \div \text{60歳以上の理解率}$$

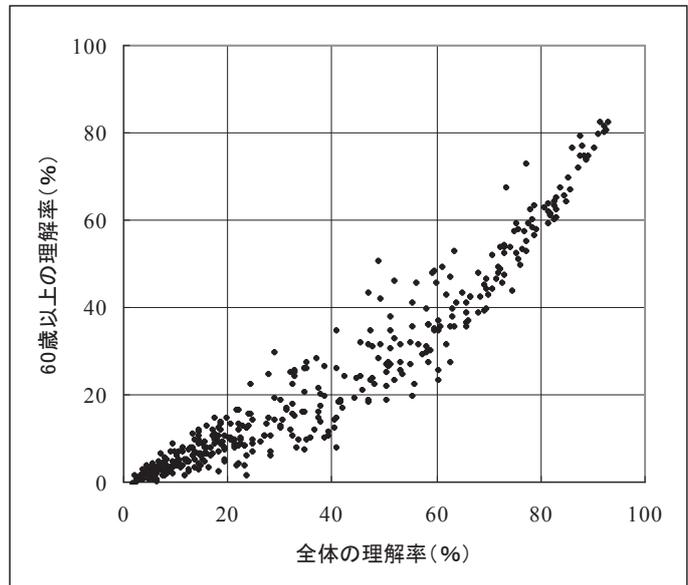


図6 全体の理解率と60歳以上の理解率の相関

表9 全体と60歳以上の理解率の差が大きい語上位10語

順位	外来語	全体の理解率	60歳以上の理解率	全体-60歳以上
1	ネット	60.3	23.8	36.5
2	リニューアル	62.5	27.6	34.9
3	チョイス	55.0	20.2	34.8
4	ネットオークション	60.0	25.7	34.3
5	ディスク	55.5	22.8	32.7
6	ダウンロード	40.6	8.2	32.4
7	サプリメント	50.2	19.2	31.0
8	シミュレーション	58.3	27.8	30.5
9	マニュアル	74.4	44.0	30.4
10	プログラム	61.7	31.6	30.1

表9では、「1. ネット」「4. ネットオークション」「5. ディスク」「6. ダウンロード」「8. シミュレーション」「10. プログラム」のように、半数以上がコンピューターなど情報技術に関連する語である。「2. リニューアル」「3. チョイス」のように、抽象概念を表す語が2語、上位に挙がるが、「7. サプリメント」「9. マニュアル」など、具体物を表す語もある。

表10 全体と60歳以上の理解率の比が大きい語上位10語

順位	外来語	全体の理解率	60歳以上の理解率	全体÷60歳以上
1	ジャンクフード	23.5	1.8	13.1
2	トレーサビリティ	6.1	0.6	10.2
3	トリアージ	2.0	0.2	10.0
4	キュレーター	1.5	0.2	7.5
5	サマリー	11.6	1.7	6.8
6	コラボレーション	18.0	2.9	6.2
7	アドミッションオフィス	2.4	0.4	6.0
8	ポータルサイト	5.3	0.9	5.9
9	リテラシー	6.3	1.1	5.7
10	スティック	23.1	4.1	5.6

表10では、全体の理解率が7%以下ときわめて低いものが半数以上を占めるが、「1. ジャンクフード」「10. スティック」「6. コラボレーション」など、理解率がそれほど低くない語も上位に挙がっている。

表11 全体と60歳以上の理解率の差が小さい語上位10語

順位	外来語	全体の理解率	60歳以上の理解率	全体－60歳以上
1	ダンピング	48.8	51.1	-2.3
2	アスベスト	28.9	30.2	-1.3
3	インキュベーション	3.3	3.3	0.0
4	バイオマス	9.1	8.9	0.2
5	フィランソロピー	1.9	1.7	0.2
6	ドクトリン	6.9	6.7	0.2
7	オフサイトセンター	4.2	3.9	0.3
8	リビングウィル	5.2	4.5	0.7
9	オンブズパーソン	3.0	2.0	1.0
10	アカウントビリティ	4.4	3.4	1.0

表12 全体と60歳以上の理解率の比が小さい語上位10語

順位	外来語	全体の理解率	60歳以上の理解率	全体÷60歳以上
1	ダンピング	48.8	51.1	0.95
2	アスベスト	28.9	30.2	0.96
3	インキュベーション	3.3	3.3	1.00
4	バイオマス	9.1	8.9	1.02
5	ドクトリン	6.9	6.7	1.03

6	コンセンサス	24.0	22.9	1.05
7	デイサービス	77.2	73.2	1.05
8	オブザーバー	46.8	43.6	1.07
9	オフサイトセンター	4.2	3.9	1.08
10	ホワイトカラー	73.3	67.6	1.08

表11と表12とでは、「ダンピング」「アスベスト」「インキュベーション」「バイオマス」「ドクトリン」「オフサイトセンター」の6語が共通している。「ダンピング」「アスベスト」のように、歴史的にかなり以前から使われてきた語は、年齢層の高い人の方が馴染みがあるということだと思われる。一方、「バイオマス」「オフサイトセンター」のように、ここ数年で使われ始めるようになった語もあり、単語の古さという点だけからは説明できないところもある。経済（インキュベーション）、政治（ドクトリン）、科学（バイオマス）、原子力（オフサイトセンター）といった分野の語のなかに、60歳以上の方がよく理解している語が散見されることは、これらの分野への関心が、高年齢層でも高いということがあるのかもしれない。

3.3.2 年齢層による理解率のちらばり

次に、年齢層による定着度の違いを、さらに詳しく見るために、10歳刻みで集計を行ったデータを分析したい。例えば、「アーカイブ」という語の、10歳刻みでの各年齢層の理解率は、表13の通りである。

表13 「アーカイブ」の年齢層別の理解率

外来語	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	全体平均	標準偏差
アーカイブ	3.0	11.1	12.1	12.7	7.1	5.8	2.4	7.7	4.3

このデータを、調査対象語のすべてについて算出すれば、年齢層による散らばりの度合いが、語によってどの程度違うのか、どの年齢層の理解率が高い（低い）のか、といったことを把握することができる。

まず、標準偏差に着目して、年齢層による散らばりの大きさを概観したい。表14は、標準偏差の大きいものから20語を示したものである。

表14 年齢層別理解率の標準偏差の大きいもの（上位20語）

順位	外来語	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	全体平均	標準偏差
1	ダウンロード	70.7	73.9	68.8	51.2	29.3	12.9	3.2	44.3	29.2
2	ネット	79.2	86.4	83.2	74.9	51.4	30.5	14.8	60.1	28.3
3	リニューアル	73.8	86.2	86.0	77.4	66.1	35.2	15.7	62.9	27.1
4	ネットオークション	81.7	79.4	82.8	76.3	59.7	31.9	17.3	61.3	26.6
5	トレンド	32.0	81.7	81.8	71.3	50.0	35.5	15.1	52.5	26.4
6	サプリメント	63.5	81.9	72.9	63.0	46.5	25.5	10.9	52.0	25.8
7	チョイス	62.4	75.9	79.9	73.9	55.3	22.3	17.3	55.3	25.7
8	ディスク	68.9	77.8	78.2	69.8	45.9	29.6	13.6	54.8	25.5
9	デリバリー	51.9	81.1	75.5	55.4	43.0	25.9	9.6	48.9	25.5
10	シミュレーション	80.8	85.7	81.7	75.7	63.4	30.5	24.4	63.2	25.5
11	バーチャル	63.0	69.8	59.6	49.4	37.7	13.9	8.2	43.1	24.2
12	リバウンド	79.8	83.2	83.0	83.9	69.1	49.4	20.7	67.0	23.9
13	アロマセラピー	55.6	67.8	77.3	65.3	50.9	32.3	7.8	51.0	23.9

14	インストラクター	65.0	84.2	89.0	85.1	70.2	49.4	22.9	66.5	23.7
15	リンク	61.3	59.9	60.4	48.1	25.5	13.3	6.5	39.3	23.7
16	ポジティブ	54.5	63.5	67.5	55.4	33.3	16.9	7.1	42.6	23.7
17	マニュアル	84.5	90.1	88.6	92.3	80.7	52.9	30.1	74.2	23.6
18	セキュリティ	72.0	90.0	81.8	85.1	69.8	45.2	25.6	67.1	23.4
19	リアルタイム	73.5	80.0	77.6	74.4	57.5	35.1	20.6	59.8	23.4
20	サイト	49.0	67.1	55.0	42.4	28.8	10.2	4.7	36.7	23.2

表14に挙がる語の全体平均の理解率は、35%から70%程度の範囲におさまり、定着度の中段階のものばかりである。このことは、定着が進行中の語において、年齢層による差が大きいものが目立つということの意味している。意味分野にも特徴があり、コンピューターなどの情報技術分野や、比較的若い年齢層の日常活動に密着した分野の語が目立つ。

表15は、標準偏差の小さいものから20語を示したものである。この20語は全体平均が6%未満のものばかりであるが、もとなる数値が小さい場合、標準偏差が小さくなるのは当然である。そこで、全体平均が一定以上の範囲に限って、ちらばりの小さいものを見るために、25%で線引きをした範囲での上位20語も、表16に示した。

表15 年齢層別理解率の標準偏差の小さいもの〔全体平均の制限なし〕(上位20語)

順位	外来語	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	全体平均	標準偏差
1	フィランソロピー	2.0	1.4	2.6	1.2	2.4	2.2	1.0	1.8	0.6
2	オーセンシティ	1.0	2.4	4.0	3.3	1.8	1.3	0.9	2.1	1.2
3	オンブズパースン	2.1	2.0	3.9	4.5	3.1	2.7	1.0	2.8	1.2
4	コモンアジェンダ	1.0	3.2	2.0	4.9	2.7	1.5	1.2	2.4	1.4
5	コーポレートガバナンス	2.1	5.4	3.9	4.1	3.5	3.1	1.0	3.3	1.4
6	パブリックインボルブメント	2.0	4.2	3.8	5.1	4.2	2.2	0.5	3.1	1.6
7	キュレーター	1.0	4.7	2.7	1.2	1.0	0.4	0.0	1.6	1.6
8	カウンターパート	5.0	6.9	7.1	3.8	5.8	5.8	2.4	5.3	1.7
9	トリアージ	0.0	3.5	2.4	4.1	3.0	0.3	0.0	1.9	1.8
10	インキュベーション	0.0	3.8	2.1	2.4	5.3	4.6	1.4	2.8	1.9
11	ロードプライシング	1.0	4.7	4.7	2.1	4.9	1.2	1.0	2.8	1.9
12	アカウントビリティ	2.0	2.6	5.9	5.7	5.1	4.9	1.2	3.9	1.9
13	アクセシビリティ	3.0	6.9	6.3	5.5	4.5	2.7	1.4	4.3	2.0
14	オーソライズ	0.0	4.7	6.2	4.9	5.6	3.5	2.6	3.9	2.1
15	ユビキタス	2.0	5.6	5.0	6.4	4.2	3.1	0.0	3.8	2.2
16	リビングウィル	3.0	5.3	5.9	8.1	4.3	6.6	1.5	5.0	2.2
17	エンフォースメント	3.8	4.1	7.3	4.1	3.6	1.9	0.0	3.5	2.2
18	ポータビリティ	2.1	5.4	7.0	4.1	3.8	1.6	0.5	3.5	2.3
19	オフサイトセンター	1.0	1.4	3.5	6.9	5.5	5.2	2.1	3.7	2.3
20	アナロジー	4.3	7.8	7.1	7.0	6.7	3.6	1.6	5.4	2.3

表16 年齢層別理解率の標準偏差の小さいもの〔全体平均25%以上のもの〕(上位20語)

順位	外来語	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	全体平均	標準偏差
1	リハビリテーション	83.2	95.0	93.4	92.2	88.4	85.4	72.4	87.1	7.8
2	リサイクル	94.1	98.5	94.1	92.7	95.0	87.4	74.6	90.9	7.9
3	ストレス	96.2	98.0	100.0	97.3	97.3	88.6	75.6	93.3	8.6
4	プライバシー	96.1	97.4	96.1	98.0	94.2	87.0	73.5	91.8	8.9
5	オンライン	59.3	71.7	67.0	71.1	68.4	57.4	46.6	63.1	9.1
6	ホームヘルパー	84.8	88.8	90.8	92.7	90.0	84.8	65.3	85.3	9.3
7	セクター	25.9	45.3	34.0	43.4	38.6	33.3	19.2	34.2	9.3
8	グループホーム	13.0	18.2	29.0	38.3	32.5	30.3	17.1	25.5	9.4
9	ボランティア	100.0	95.9	98.8	94.6	95.5	85.7	73.2	92.0	9.5
10	レンジャー	24.2	37.1	45.0	39.9	38.8	32.7	17.6	33.6	9.6
11	スクーリング	16.0	35.0	35.1	42.6	36.2	30.1	18.6	30.5	9.8
12	マクロ	22.2	47.2	27.7	42.2	36.0	28.7	20.5	32.1	10.1
13	オンブズマン	24.0	30.2	40.9	47.2	35.5	32.6	17.0	32.5	10.1
14	トラブル	97.0	99.4	99.1	97.0	96.1	89.3	71.0	92.7	10.1
15	イニシアチブ	19.2	30.6	37.8	37.8	33.9	17.1	12.2	26.9	10.6
16	コミュニケ	20.4	30.3	39.0	46.8	46.4	33.3	21.7	34.0	10.7
17	レクリエーション	76.9	87.8	98.8	93.2	95.5	84.8	68.3	86.5	10.8
18	リストラ	90.0	97.9	96.9	98.4	94.9	89.1	67.3	90.6	10.9
19	テクノポリス	27.3	33.9	40.5	37.2	24.9	18.5	8.7	27.3	11.1
20	ルール	98.1	98.7	96.5	97.2	90.8	82.4	68.7	90.3	11.2

表16を見ると、ほとんどが、理解率の全体平均が25%から35%程度と低いものと、85%以上のきわめて高いものとの、いずれかである。例外は、「5. オンライン」(63.1%)のみである。標準偏差の小さいもの、すなわち、年齢層による理解率のちらばりが小さい語は、定着度の低い段階のものと、定着度の高い段階のものとの、二極に分かれることが分かる。

4 おわりに

以上、「外来語定着度調査」のデータを分析して述べてきたことをまとめると、次の三点になる。

- (1) 理解率を指標として、定着度の観点から外来語を四つの層に分けた。この四層の区分は、「外来語」言い換え提案で、外来語の分かりにくさを測り、対応の方法を考える区分にも使用している。
- (2) 認知率と理解率との相関、理解率と使用率との相関を確認し、それぞれの乖離の度合を考察した。乖離度の大きい語、小さい語の性質を考察するなど、定着度から見た外来語の層別を、きめ細かく観察した。
- (3) 年齢層による定着度の違いを、国民全体と60歳以上との違い、年齢層による定着度のちらばり、という観点から分析した。

外来語の定着度には、語により、年齢層により、多様なありようが見られた。他方、定着度を用いて語彙の層化を行うことが有効であることもうかがえた。定着度調査のデータの分析は、本論文がおこなったものとは別の観点から行われることも期待される。

注

- 1 この認知率と理解率の相関，後に述べる理解率と使用率の相関については，田中（2006）でも概要を述べた。ここでは，より詳しい分析を行う。
- 2 「ソフト」「ハード」「ディスク」は，コンピューター以外の意味分野で使われることもあるが，ここに示した定着度調査結果のデータは，「コンピューターに関する言葉」という限定を付けて，質問を行った場合のものである。

参考文献

田中牧郎（2006）「現代社会における外来語の実態」『新「ことば」シリーズ19 外来語と現代社会』国立印刷局